

新

年あけましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては希望に満ちた新年をお迎えしたことをお喜び申し上げます。

昨年長く続いたコロナ禍から抜け出し、ようやく日常を取り戻すとともに、アフターコロナに向けて準備してきたさまざまなことが徐々に動き始めてきた年でもありました。

春には整備を進めてきた竹嶋潟スケートパークがオープンし、秋からは第二期工事を進めています。アウトドア拠点施設建築工事ではいよいよ建物の形が見えるようになり、新しい体験型観光に向けて期待が膨らみます。そして4年ぶりに開催した「敬老式」では、多くの方から開催に対する感謝の声をいただいたところです。これまでの画面越しの交流がリアルなものに変わり、人の流れが地方にも戻りつつある今、にかほ市においても後れをとらないようスタートダッシュが重要であると感じています。

一方で世界に目を向けると、依然としてロシアによるウクライナへの軍事進攻が続く、さらにはガザ地区でのイスラエルとハマスの対立など報道を見るたびに胸が痛くなる状況が続いています。それは遠い世界のことではなく私たちの日常生活にも影響を与えています。そうした中で皆さまの健康と生活を守るための対策を適時適策にて実施してきたところです。改めて世界の

令

和6年の新春を迎え、市民の皆さまに謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は、国民生活に影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に引き下げられ、人・まち・経済の動きに回復が見られたことはひとつの光明でありました。

一方で、長引く国際紛争や異常気象に端を発する資源や食料品価格高騰が続く、出口の見えない先行きの不透明さが生活に重くのしかかった一年でした。そうした課題を背景に、市議会としては、年4回の定例会をはじめ、臨時議会、常任委員会等各種会議において真剣な審議に努めてまいりました。加えて昨年は、「議員と語ろう！」と題した事業を開始し、各種グループ、団体の方々の意見交換の機会をいただきました。参加された一人ひとりが市政に対して深い関心と、より良いまちづくりへの強い思いを持っておられることを実感し、市民の声を市政に届けるという議会の役割を再認識いたしました。今年も、そのような機会に参加いただきましますとともに、議会傍聴やインターネットでのライブ配信など議会からの情報発信に関心を持っていただき、住みよいまちづくりのための声をお聞かせいただければ幸いです。

毎号、「広報にかほ」では若者の輝かしい笑顔とがんばりが紹介され、私たちに元気を与えてくれています。しかし将来に目を向ければ、人口減少対



にかほ市長
市川 雄次

平和を強く望むと共に、市民の皆さまの幸福を願っています。

さて、これまでも本市では少子高齢化・人口減少対策とともに、持続可能な地域社会の構築に取り組んでまいりました。昨年には学校環境適正化基本計画（案）を提案させていただきました。来るべき少子化社会に対応しながら、いかにして「若者が躍動するまち」を作っていくことができるか、を深く考えた年でもありました。その中で改めて「仁賀保高校」が本市にとって重要な存在であることを再認識しました。持続可能なにかほ市を実現するためには、「子育て支援の充実」「移住定住の促進」「産業・観光振興」を推進し、若者が輝けるまちをつくることが大切であると改めて強く感じているところであります。

未来にバトンを渡すのは私たちです。将来を担う子どもたちに幸せなバトンを繋いでいけるよう、市民の皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。この一年が皆さまにとって実り多きものになりますことを祈念いたします。

策は喫緊の課題であり、社会保障や基本的なインフラ、産業の維持にも関わる深刻な懸念材料です。市では、子ども、若者支援をはじめ、多方面にわたる施策を打ち出しています。市議会は、若者たちの笑顔を未来につなぐため、施策のさらなる拡充に向けて市民とともに知恵を出し合っています。

さて、今年は道の駅に隣接する「アウトドア拠点施設」がオープンします。市民はもちろん、観光で来訪される人々が市内の優れた自然や環境を満喫するための拠点となり、本市、さらには秋田県の新たな玄関口として多様な役割を果たし、地域の魅力に彩りを加えることを期待いたします。

市議会は、市民が安心・安全に暮らせるまちづくりのため、市政に対するチェックと政策立案の機能強化を図り、皆さまの負託に応えられるよう努めてまいりますので、ご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

令和6年が良い年になりますよう、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



にかほ市議会議長
宮崎 信一

謹賀新年

写真：地域おこし協力隊細見童平